

巻頭言

「神に喜ばれる人」

齋藤宗三

作家の壺井栄の作品に「おかあさんのてのひら」という簡単な作品があります。百姓女であった母親の手について幼い日の思い出を書いたものですが、その終わりのところにこんなことが書いてあります。

『母親が袋の中からソラマメの炒ったものを一握りずつ取り出して、姉と弟にわけてくれるのですが、二人で多いだの少ないだのと言って文句を言います。母親が数を数えてごらんと言うので、弟が数を調べてみると、両方とも28粒なのです。なんというえこひいきのないお母さんの手のひらだったことでしょう。』

この姉と弟はソラマメを数えるまでは、なんだか自分の方が少ない様な気がしていたのです。もし自分の方が多しと思っていたら、数が違っていても文句などは言わないはずですが、こんな時人間というものはず相手がの方が多いと思うものです。それは人間の心にある欲望がより多く、より多くと求めるからなのです。えこひいきのない母親の愛の心を子どもたちは理解しようとしないうのです。この姉と弟ばかりではありません。人間というもの誰でも、この二人のような考え方をいつもしています。自分を中心としてすべてのことを判断し、自分とこの世界を創造された神の愛の御心を知ろうとしないうのです。

慎み深く、神の前に謙遜である人こそ神に喜ばれる人なのです。



壺井 栄（つぼい さかえ、旧姓：岩井、女性）

1899年（明治32年）～1967年（昭和42年）

昭和の小説家・詩人で『二十四の瞳』は

戦後反戦文学の名作として後に映画化された。



お誕生日
おめでとう!!



年長 ゆり組 （ブルーバッチ）

担任：若林 香純

夏休みが明け、「ハン作りが1番楽しかったね」「お泊まり保育のビデオ、また見たいな」と夏期保育で過ごした日々を友だちと振り返ったり、運動会に向けて鉄棒を取り組み、出来た事を友だちと喜び合ったりしながら過ごした9月でした。園庭では、玉入れや楽しみにしていたリレーも行ないました。まだまだバトンの受け渡しや次の走者が出る場面など難しいところもありますが、「もう一回やりたい！」「今日はリレー出来ないの？」と張り切っています。今月はお芋掘りや春に植えた稲の収穫も予定しています。ひよろひよろだった稲がどれだけ大きくなり実をつけているのか、神さまの恵みを自分たちの目で確かめ神さまに感謝しながら自分の手で収穫する楽しさを知ってもらいたいと思います。

<10月のクラス目標>

- * 神さまからいただいた秋の恵みに感謝する。
- * 友だちと力を合わせる楽しさを味わう。
- * 全身を使って自分の持っている力を発揮する。

年中 きく組 （ピンクバッチ）

担任：椎野 未有

2学期が始まり、生活リズムが再び整ってきた9月半ばころ、部屋中に響きわたる大きな声で友だちとの会話を楽しむ姿に、自信たっぷり！自分の居場所をちゃんと見つけているんだなと成長を感じました。また、2学期に入り運動会に向けて遊びの中でかけっこをしたり玉入れを楽しんだりしています。違うチームに分かれても「負けないぞー！」「こっちだって負けないからねー。」と切磋琢磨しながら頑張っています。人とは違う自分らしさを磨き、ありのままの自分を大切にしながらも友だちと一緒に頑張る喜びも感じて欲しいと思います。

<10月のクラス目標>

- * 神さまから健康な体を与えられた事に感謝する。
- * 友だちと楽しく活動していく中で工夫をしたり協力をしていく。
- * 友だちと言葉を交わす喜びを味わう。

年少 つぼみ組 （あかバッチ）

担任：滝島 瞳

運動会の取り組みとしてクラスではお寿司作りやダンス、かけっこをしてきました。登園すると「今日は運動会？」「運動会楽しみだな」と初めての運動会を楽しみにする気持ちが見られました。また、がんばりマンの歌では子どもたち同士で振付を考え、お家の方に見せることを楽しみにしています。引き続き運動会に向けて子どもたちが「もっとやりたい！」と思えるように楽しみながら活動していきたいです。

今月はお芋掘りやどんぐり拾いも予定しています。秋の自然に触れ、どんぐりで駒や笛を作り楽しんでいきたいです。

<10月のクラス目標>

- * 健康を支えて下さっている神さまに感謝する。
- * 楽しみながら身体を動かす。
- * 秋の自然の実りを使って製作を行なう。